

第三者評価結果

事業所名：YMCAとつか乳児保育園

A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
<p>A-1-(1)-① 【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。</p>	a
<p><コメント> 全体的な計画は、YMCA保育園全体の理念である「愛と奉仕の精神に基づき、一人ひとりの命が輝く平和な社会の実現を目指します」を基に、法人の系列園主任会議で基本事項を協議したうえで作成されています。当園の計画においては、保育方針である「子どもの主体性や豊かな感性を育む」ことを基本とした保育活動、乳児園としての地域の子育て支援や地域交流の取り組みなどを明示しています。計画の作成においては、年度初めの職員会議で、保育現場の課題や目標、園の特色や地域の特徴などを確認し、保育内容に関する職員の意見を取り入れています。全体的な計画の内容は、非常勤職員、栄養士、調理師を含む全職員に説明し、職員間で共有しています。</p>	
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
<p>A-1-(2)-① 【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。</p>	a
<p><コメント> 各保育室には、温湿度計や空気清浄機などを設置し、適切な保育環境を整備しています。保育室や廊下、トイレなどの清掃は、「保育室清掃チェック表」「トイレ清掃チェック表」を基に、1日4回、担当者を決めて実施しています。おもちゃの消毒は、「おもちゃ消毒表」を使用し毎日行っています。布のおもちゃについては、週に一度、次亜塩素酸で消毒しています。家具や遊具は倒れにくいものを設置し、安全に配慮しています。0歳児クラスでは、手作りの布の人形、飲み物の容器をリサイクルして作ったおもちゃなどを用意しています。また、0歳児クラスの保育室には、布のマットやクッション、パーティションなどを設置し、子どもたちが寝転んで遊べるスペースを作っています。食事は、採光の良い場所を選び、適正な距離を確保してテーブルを設置しています。睡眠の時間は、換気や照明に留意し、心地よく眠れるように配慮しています。</p>	
<p>A-1-(2)-② 【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。</p>	a
<p><コメント> 一人ひとりの子どもの発達状態や家庭環境については、入園前に健康調査票、食事調査票などを提出してもらい、園長及び主任が面接し把握しています。日常の保育においては、子どもが安心できる環境を整え、一人ひとりの思いを受け止めることを推進しています。0歳児クラスの保育室は、子どもがゆったりとした中で落ち着いて遊べるよう、布のマットで遊びのスペースを分けています。言葉で気持ちを表現できない子どもに対しては、表情やしぐさなどから子どもの思いを汲み取って、声をかけるようにしています。言葉をかけるときは、子どもにわかりやすい言葉づかいで、職員の声が大きくならないよう、優しくおだやかに話すことを心がけています。園内研修においては、プラスの声かけ、子どもの思いを受け止めて代弁することなどについて学んでいます。</p>	
<p>A-1-(2)-③ 【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。</p>	b
<p><コメント> 離乳食、食具の使用、トイレトレーニングは、家庭と連携して、無理強いをせず、子どもの気持ちを受け止めながら、段階的に進めるようにしています。子どもが自分でやりたいと思う気持ちを尊重し、できた時にはできた喜びを共有し、自信につながるようにしています。また、子どもの成長や子どものペースに合わせて、個別に対応しています。休息や午睡においては、一人ひとりの生活リズムを大切にしています。0歳児クラスでは、眠くなったらいつでも眠れる場所を用意しています。手洗いやうがい、着替え、後片づけなどの生活習慣については、子どもたちが毎日の生活の中で興味や関心を持ち、自立心がはぐくまれるようにしています。園では、午睡時間やトイレトレーニングなどに関する保護者の思いや要望に対して、子どもの成長の様子をていねいに伝えることを課題として認識しています。</p>	
<p>A-1-(2)-④ 【A5】 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	a
<p><コメント> 日常の保育においては、職員が誘導するのではなく、子どもが生活や遊びを自主的に行うことができるよう努めています。子どもたちが一斉に活動することは極力避け、散歩に行きたくない子どもは、園内での遊びや違うクラスでの遊びができるようにしています。散歩の行き先については、子どもに聞いて決めています。2歳児クラスは、1時間ほど歩いて遠い公園まで行く時もあります。散歩の際には近隣の人に挨拶をしたり、交通ルールを伝えたりしています。また、散歩先で木の実を拾う、かまきりなどの虫を観察するなど、自然との触れ合いを楽しんでいます。0、1歳児クラスは、斜面のある公園での身体を使う遊び、室内でのマット運動やトンネル遊びなど、身体を動かす時間を多く設けています。保育においては、2歳児クラスの子どもが0歳児クラスの子どもと寝かしつけをしたり、おもちゃを貸してあげたりするなど、異年齢でのかかわりを大切にしています。</p>	

<p>A-1-(2)-⑤ 【A6】 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	<p>b</p>
<p><コメント> 0歳児クラスでは、一人ひとりの生活リズムに合わせて、安心して過ごせるように配慮しています。午前寝や昼寝ができる環境を整え、個々に合わせたリズムで睡眠が取れるようにしています。また、子どもの表情やしぐさから、子どもの思いを受け止め優しく対応しています。泣いているときは、さまざまな欲求があることを理解し、欲求を満たせるようなかかわりをしています。不安な様子が見られるときは、子どもとのスキンシップを大切にしています。おもちゃや絵本などは、月齢や発達に合わせたものを用意し、子どもが好きなものを手に取って遊べるようにしています。連絡帳には、写真入りのコメントを入れ、子どもの様子が保護者に伝わるよう工夫しています。園では、月齢の差による活動の違いにどのように対応していくかを、今後の課題として検討しています。</p>	
<p>A-1-(2)-⑥ 【A7】 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	<p>a</p>
<p><コメント> 1、2歳児クラスでは、子どもがやってみたいという気持ちを受け止め、成功体験を通して自信が持てるようにしています。戸外での遊具遊びにおいては、安全に留意したうえで、子どもがいろいろなことを試してみようという気持ちを大切にしています。保育室では、子どもが好きな遊びに熱中できるよう、遊びによってコーナーを作り、取り出しやすい場所におもちゃや絵本を設置しています。子どもたちが興味を持ったことは、継続して楽しめるよう、翌日以降の活動に組み込んでいます。子ども同士のトラブルになりそうな時は、行動を見守りお互いの気持ちを受け止め、言葉にできない子どもには、職員がわかりやすい言葉で代弁しています。また、絵本の取り合いが起こったときなどは、職員はすぐに介入せずに見守り、子どもたちが自分たちで解決できるよう仲立ちをしています。各保育室のドアは開放し、子どもたちが自由に行き来できるようにしています。</p>	
<p>A-1-(2)-⑦ 【A8】 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	
<p><コメント> 3歳以上児の保育を実施していません。</p>	
<p>A-1-(2)-⑧ 【A9】 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	<p>a</p>
<p><コメント> 保育室は段差のない構造になっており、ロッカーを使用しやすい場所に設定するなど、子どもが過ごしやすい環境を整備しています。また、一人ひとりの特性を理解し、状況の変化に対しては、保護者と相談しながら柔軟に対応できる体制を整えています。療育センターなどの支援を受けている場合は、療育での様子を保護者に確認し、園での適切な援助について検討しています。日常の保育において気になることがあった場合は、月1回の法人の巡回指導の際に振り返りを行い、職員間で共有しています。また、月1回の健康診断の際に、保健師と連携し、子どもの状態を相談しています。職員の研修においては、子どもの発達障害や慢性疾患などについて学んでいます。</p>	
<p>A-1-(2)-⑨ 【A10】 それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	<p>b</p>
<p><コメント> 日常の保育においては、子どもの発達や興味に合わせた少人数のグループの中で、好きな遊びを十分に楽しめるように配慮しています。睡眠や食事に関しては、個々の子どものリズムを尊重し、寝たい時に寝て、食べたい時に食べることができる環境を整えています。1、2歳児クラスでは、日常的に合同での活動を行い、0歳児クラスは、夏季から1、2歳児と合同で過ごすようにしています。少人数の異年齢グループでの活動を基本とし、2歳児クラスの子供たちは、0歳児クラスの世話をすることを経験しています。子どもたちの様子は、「連絡板」を通じて職員間で引き継ぎをしています。長時間保育の子どもが多いことから、園では、職員体制を整備し残業の適正化を図ることなどを、課題として検討しています。</p>	
<p>A-1-(2)-⑩ 【A11】 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	
<p><コメント> 0~2歳児対象の保育所のため、対応していません。</p>	

A-1-(3) 健康管理	第三者評価結果
【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a
<p><コメント></p> <p>子どもの健康管理においては、アレルギー、感染症、けいれん、与薬などに関する重要事項を記載したマニュアルを基に、職員に周知しています。また、法人の「保健年間計画」を基に、環境衛生に関する園の計画を作成しています。保護者には、入園時に健康調査票を提出してもらい、子ども一人ひとりの健康状態や既往症を把握しています。また、「ほけんだより」を毎月発行し、保護者が理解しやすい健康に関する記事を載せています。乳幼児突然死症候群の防止対策については、0歳児クラスは5分、1歳児クラスは10分ごとに、タイマーを使って呼吸チェックを行っています。保護者には、乳幼児突然死症候群に関する資料を保育室に掲示し、園の取り組み内容について周知しています。</p>	
【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	b
<p><コメント></p> <p>健康診断及び歯科健診を年2回、身体測定を毎月実施し、結果を個人別の「健診表」に記録しています。また、保護者からの「問診票」を健診前に担任が確認し、連絡板を通じて全職員が閲覧できるようにしています。健診終了後には、「健診結果報告書」を保護者に配付するとともに、必要に応じて個別に報告をしています。また、嘱託医からのアドバイスに基づいて、受診などに関する連絡をしています。歯磨きについては、コロナ禍で日常の歯磨きを中止していますが、絵本や紙芝居を使って、歯についての話をしています。保護者には、家庭での適切な歯磨きについて、知らせています。園では、予防接種歴の正確な確認方法、口内衛生の管理方法を検討することの必要性を、課題として認識しています。</p>	
【A14】 A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>アレルギー疾患や慢性疾患に対しては、「横浜YMCAアレルギー対応マニュアル」を基に、園における対応方法を明示しています。慢性疾患のある子どもを受け入れた場合には、かかりつけ医からの指示に基づいて適切に対応する体制を整えています。保護者には、入園説明会で、アレルギー対応などに関するしおりを配付し、注意事項を説明しています。食物アレルギーのある子どもについては、月に1度、栄養士及び担任が保護者との個人面談を行い、献立における除去食材の確認、医療機関での受診の様子などを確認しています。食事においては、担任、栄養士、配膳担当の職員がチェックを行い、誤食防止を徹底しています。また、個別のテーブルを用意し、専用のトレイに色付きの食器を使用し、専用エプロンをつけた職員が介助をしています。アレルギーに関する研修については、栄養士及び保育担当職員が受講し、対応策を共有しています。</p>	
A-1-(4) 食事	第三者評価結果
【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	b
<p><コメント></p> <p>法人全体の「食育計画」を基に、園独自の食育活動を行っています。クラスごとに、食べ物にちなんだ歌や絵本を用意して、食への興味を深めています。また、園で育て収穫したなす、ピーマン、トマトなどは、ピザの料理に使用しています。給食時は、感染症対策を徹底したうえで、友だちと楽しく食べることを大切にしています。0歳児クラスでは、手づかみで自分で食べる経験をしてから、徐々にスプーンの使用に移行できるようにしています。保護者には、人気メニューのレシピを、懇談会などで配付しています。園では、どのクラスも、年齢的に好き嫌いの個人差がある時期であることから、苦手な食材の量を減らすなどの工夫をすることを、課題として検討しています。</p>	
【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a
<p><コメント></p> <p>子どもがおいしく安心して食べることができるよう、子どもの発達状態に応じた献立や調理方法を工夫しています。献立は2週間サイクルになっており、季節の旬の食材を利用し、和食を中心とした調理を行っています。調理方法や喫食状況などについては、系列園の栄養士が2週間ごとに「献立反省会」を行い、各園の情報を交換して、献立作りに反映しています。園独自のメニューを月4回作成し、子どもたちは、選んで食べられるお寿司、ピザ、ハンバーガーなどの人気メニューを楽しんでいます。また、誕生日、イースター、七夕などの行事食、郷土料理、世界の料理などを、献立に取り入れて提供しています。栄養士は、各クラスを巡回して子どもたちの食事の様子を観察するとともに、献立の感想を聞いています。</p>	

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>日常の保育における子どもの様子は、「保育業務管理システム」の連絡帳を通じて、保護者に伝えています。連絡帳がシステム上で配信できるようになったことで、他のクラスの子どもの様子を職員間で共有し、保護者とのコミュニケーションに役立っています。0歳児クラスでは、連絡帳に写真を添えて保護者に伝えています。また、1、2歳児クラスでは、活動の記録を表示した「ドキュメンテーション」を併用し、コメントや写真を掲載して伝えています。保護者会や行事については、コロナ禍で参加などが制限されていますが、保護者アンケートを基に、行事の内容や運営方法などに関する保護者からの提案を取り入れています。今年度の運動会については、0、1歳児クラスは、保育室とホールに分かれて親子で遊びました。2歳児クラスは、近隣の小学校を借りて、系列園と合同で運動会を行うことを予定しています。</p>	
A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b
<p><コメント></p> <p>保護者対応については、「横浜YMCA保育職員ハンドブック」を基に、「相手の気持ちを配慮し心を込めて丁寧に接する」「どの保護者にも同じ態度で接する」など、職員の接遇における留意点を周知しています。登降園時には、保護者への声掛けを積極的に行い、子どもの一日の様子を詳しく伝えることを推進しています。また、保護者の都合に合わせた日程で個人面談を実施し、就労状況や家庭での様子などを把握し相談に応じています。0歳児クラスは、入園から2か月後の個人面談で、園での生活や家庭での状況を話し合い、保護者の要望を確認しています。面談の記録はシステム上に保存し、全職員が閲覧できるようになっています。園では、保護者との面談において別室などの用意はしていますが、ゆったりとリラックスした雰囲気話せる設備環境を整えることを、課題として検討しています。</p>	
【A19】 A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a
<p><コメント></p> <p>送迎時や保育中における子どもや保護者の様子、態度などを注意深く観察し、虐待の早期発見、早期対応に努めています。着替えの際には、身体にあざやけがの痕がないか確認し、気になることがあった場合は、連絡板を通じて職員間で共有しています。保護者の様子が気になる場合は、声掛けをして、保護者の気持ちに寄り添うよう配慮しています。虐待の可能性や疑いがある場合は、園長及び主任に報告し、戸塚区こども家庭支援課や横浜市南部児童相談所などの関係機関と連携し、適切に対応する体制を整えています。職員には、「虐待防止マニュアル」を基に研修を行うとともに、年度初めには、「子どもの権利条約」の読み合わせを行い、虐待防止に対する意識を高めています。</p>	

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	第三者評価結果
【A20】 A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b
<p><コメント></p> <p>日常の保育内容については、年間指導計画や月案の自己評価及び反省欄に記入するとともに、職員会議などにおいて子どもの状況を話し合っています。職員の自己評価においては、法人の「スタッフサポートシート」に基づく等級別の自己評価表を基に、保育業務における目標や行動などについて振り返りを行っています。職員の自己評価結果の集計を基に、子どもの発達援助、保護者支援、保育を支える組織的基盤などの項目ごとに、課題を抽出しています。また、職員の自己評価を基に「保育所の自己評価」を行っています。職員の保育実践における専門性の向上については、各職員のキャリアに応じた研修を提供しています。今年度は、「遊びの研究、絵本について」「乳児保育」「アレルギー対応」「主任保育士講座」などの研修の受講を計画しています。園長は、園の自己評価の内容を職員が共有し、園全体で検討する時間を設けることを、今後の課題として認識しています。</p>	